

私達ができること

沖縄県 うるま市立あげな中学校三年 山内 愛

私達は様々な場面で水を使用する。だから、この世界から「水」がなくなったら、一体どうなるのか。

私達の身体には沢山の水分が含まれていて、身体の体重の約六十パーセントが水分だ。また、厚生労働省によると、成人が一日に必要な水分量は二・五リットル前後。トイレやお風呂、調理や洗濯など、日常生活を送る中で飲む以外に使い方がるので、一日に使う水の量は二・五リットルを遙かに超えると思われる。なので、この世界から水がなくなると、人間は生活を送るどころか、生きていくことすら困難になる。では、世界の人々は水を無駄なく使うことができているのだろうか。

無駄な水の使い方としては、歯をみがく間の水の流しっぱなしや、浴槽に溜めておいた水をそのまま流す、などが挙げられる。他にも、食器や野菜を洗う時に水を出しっぱなしにしたり、洗濯物を何回か分けて洗うという例も挙げることができる。今挙げた例以外にも、無駄な水の使い方は沢山ある。そんな水を減らす「節水」を行っていく必要がある。先ほど挙げた例の節水方法としては、水を使う時以外は水道を止めることや、溜めておいた水を再利用する、などがある。

節水を行うメリットとしては、世界中で深刻化する水不足を改善したり、水道を安くしたりすることだ。

日本では、きれいで安全な水を得ることができている。しかし、世界ではどうだろうか。

公益財団法人、日本ユニセフ協会によると二〇二〇年時点、世界では二十億人以上が安全に管理された飲み水を使用できず、そのうち一億二千二百万人は、湖や河川、用水路などの未処理の地表水を使用している。

また、「世界の人々の、飲み水へのアクセス状況」のアンケート結果は、七十四パーセントの人が「安全に管理された飲み水を利用できる」と回

答。しかし、世界の人々の約四分の一が「きれい」だけど「安全」ではなかったり、体に害を及ぼすような水を利用していることになる。二〇一五年までは今の状況よりもっと深刻な状況だったが、SDGsが二〇一五年に開設され、世界で達成すべき目標の一つに追加されたことで改善された。しかし、良くなったからといって、達成された訳ではないので、油断してはいけない。

世界の人、全員にきれいで安全な水を届けるために、私達ができることはないだろうか。

インターネットを使って調べたところ、いろんな団体の方々が募金の協力をお願いしていた。また、他にも調べていくと驚くような記事があった。コンフロントワールドというサイトで、そこに書かれていたのは、「みなさまのおかげで、アフリカに支援を継続しております」と。その下には、貯水タンクの前でアフリカの方が笑っている写真や、トイレの無い家族にトイレを提供したボランティアの方々と笑顔で取った写真がある。それを見て、私は少し恥ずかしくなった。世界では水がなくて苦しんでいる人もいる。けれど、私はもったいない水の使い方をしていたんだと思い、とても反省した。

蛇口をひねると水が出る。それが当たり前だと思っていたが、そうでない人もいる。そんな人を救おうと、立ち上がる人や団体も沢山いる。その方々のおかげで救われた人も少なくはないと思う。ただ、まだ救われていない人もいる。そんな人々の為に私達ができること、それは「募金の協力を見かけたら積極的に募金をする」ということ。また、「節水」を行うことも重要だ。

この世界から水がなくなったら、生きていくことができない。だからこそ、私達は水の使い方を見直していく必要があると思う。